

開運成就 粟生聖天

真言宗 智山派

定福寺だより



興教大師

行基菩薩

蓮咲くは
笑い地蔵の
在す寺

能傳子

新四国曼荼羅霊場第六十一番

2018年 57号

つきのえいね
戌戌



ごあいさつ

住職 釣井 龍秀

平成三十年の年、皆さまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたことと存じ上げます。日頃はご信心で、定福寺の護持発展の為、ご法縁を賜り厚く御礼を申し上げます。当山は、ご本尊さま、諸菩薩、諸護法神、皆さま方のお陰さまで仏法興隆、伽藍安穩の途にあります。心より感謝を申し上げます。定福寺は多くの方々のご縁によりあります。江戸時代や明治時代に御寄進を頂いた法具や鐘、経机には、豊永郷にいらっしやらない姓の方々も多く記録されています。文字通り、定福寺にご縁のあった多くの方々によって守られてきました。

お寺も皆さまと同様に、多くのつながりの中で成り立っていることを実感いたします。人は、知人や友人、家族、いつもいくお店の人など、深いつきあい、浅いつきあいに関わらず多くの人とのかわりの中で生活をいたしております。現在、生活をする人どうしのつながりを「横のつながり」とするならば、今、私たちがここにいる原因である、両親や祖父母、また今は亡き多くのご先祖さまたちなど、見えない人々との「縦のつながり」もあります。中島みゆきさんの『糸』という歌に「縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かを暖めうるかもしれない」という歌詞があります。私たち各人が縦のつながり、横のつながりを紡ぎながら生活しています。紡ぐときに重要なのは、布を「織る人」です。その人を動かしているのは「心」です。「心とはなんですか？」

と問われると皆さんは、なんと答えられるでしょうか。心は不思議なもので、形や色がありません。よって品物を見定めるような方法で捉えることはできません。ある人は頭を指して脳に心がある、と言われるかもしれませんが、人の身体と無関係に存在することはありませので、これはある意味で正しいのかもしれませんが。

心についてチベット密教の最高指導者であるダライラマ法王は、「人生の幸福や悲しみは、心の強さや知性しだいである」とおっしゃられています。人間の行動の全てにおいて原因となる心。心を鍛えることは、苦しみを避け、取り除き、幸せになるための手段の一つだとおっしゃられています。学生から社会人まで様々な場面で決断を迫られます。その時、眼前の状況をどのように受け入れ、行動するのは、各人の心と深く関係しているということです。心で感じたこと、頭で考えたことが、身体や言語を使う行動になります。「心を鍛える」ということは、とても大切なことです。仏教では心を鍛える方法をお釈迦さま以来、お大師さま、また多くの僧侶が二五〇〇年間学び、引き継いできました。仏教では、「心を鍛える」ということは、心が良い方向に変わることで、心は「心を鍛える」ということは、心が良い方向に変わることで、そして良い性質が増えることを言います。心には物心がついた幼いころから、あらゆるものが蓄積されています。すべてが、これから歩む生活がよりよくなるための糧になります。

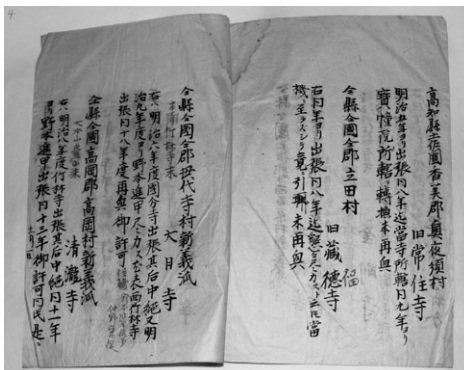
祖父父母に教えてもらったこと、両親に言われ続けてきたこと、家族が大事にしてきたもの、友人と共に経験したことすべてが、心に蓄えられ、知らず知らずのうちに、あらゆる物事を判断し、行動する原因の「心」となります。

前号で少し触れさせていただきました。明治時代の廃仏毀釈の時、定福寺の住職であった野本進甲師は、豊永郷の人々、また定福寺にご縁のある方々の支えによって、当山が廃寺を免れたことを確認した後、すぐ弟子の猪狩真浄師に定福寺を任せ、野本師は山を越え馬路村から海沿いを通り、土佐市、土佐市から山を越えて本山の東光寺まで身体と言葉を使い、お寺の復興にご尽力されました。その様子を伝え聞いた弟子の猪狩師が記した記録が、当山に残っています。野本進甲師は、ご自分の利益ではなく、多くの人々の目線に立ち行動をされました。定福寺の護持興隆、伽藍安穩に大きくご尽力されただけではなく、高知県内の多くのご寺院の護持興隆に努められた方でした。そのような行動ができたのも、多くのの方々の支えがあったからに違いありません。野本進甲師が四月一日に遷化され、本年が百回忌となります。本年の土砂加持法要には、野本進甲



野本進甲師

師とご縁のあるご持院さまにもお越しいただくこととなっています。また土砂加持法要のご法話を総本山智積院阿闍梨大森真弘師にお願いし、来寺いただくこととなります。是非、皆さまお参りにお越しくださいませ。定福寺が開基されて六年后に一三〇〇年を迎えます。また五年後は、弘法大師・空海さまが誕生されて一二五〇年の年となります。多くの皆様方からのご縁を頂きながら、定福寺は現在まで皆さまが「安心して生活ができますように」とお祈りをさせて頂き、見つめ続けてまいりました。そして多くの方々に定福寺は見守られてきました。これまで同様にお祈りをさせて頂きたいと思ひます。本年もよろしくお願ひいたします。



猪狩真浄師による野本進甲師の復興記録



猪狩真浄師による野本進甲師の復興記録

行基菩薩、興教大師安置

江戸時代に土佐藩に残る記録には、定福寺開基のご縁が僧侶の行基さまにあると記されています。また、定福寺の江戸時代の記録には、「行基菩薩像が破損した」という記録が残っています。しかし定福寺には現存いたしませんでした。数年前、義光僧正が植えられた槐（エンジュ）の木を、やすこととなりました。長老が残念に思っていたところ、山本光子様と山本倫世様のご縁を頂き、御親族の菩提を弔うために、その木を使わせていただき、行基菩薩さまと興教大師さまを長老の二女高田明仏師をはじめ、仏師の方々の手によって造立していただくこととなりました。その仏さまが昨年春完成し、当山にお迎えする好機を得ることができました。大変ありがたいことでした。



興教大師



行基菩薩

定福寺では、毎年四月一日に土砂加持法要が厳修されています。土砂加持とは、光明真言によって土砂を加持し、亡くなられた方やお墓に散ずる古くから行われているお祈りです。シルクロードの敦煌にある莫高窟二一七窟南壁に土砂加持を行っている様子が描かれています。日本では弘法大師が持ち帰った『不空羂索毘盧遮那仏大灌頂光真言』という經典に光明真言があり、真言宗や天台宗で九世紀後半から広まったとされています。十世紀後半には「光明真言による土砂加持」が行われ始めました。定福寺のご本尊は阿弥陀如来ですが、光明真言と阿弥陀如来は深い結びつきがあります。定福寺では、高知県下の結集寺院の皆様のお力を頂き、土砂を加持し、お



参りにお越しになられた方々にお渡しをいたしております。

土砂加持法要は、ご縁の方が亡くなられた最初の年度に、皆様にお入り頂いています。土砂加持に加入頂いた方は、土砂加持供養永代名簿に記させて頂きます。加入に際しまして加入時のみ土砂加持供養として三万円を頂いております。一度加入頂くと土砂加持供養永代名簿に記させて頂いており、以後毎年四月一日にはお祈りをさせて頂き、十五年間ご案内も差し上げています。四月一日ということで、お越し頂けない方もいらつしやると思いますが、お越しになられなくとも、四月一日には土砂加持名簿にてご供養をさせて頂いています。ご安心くださいませ。二年目以降もお越し頂き、当日受付にてお申込み頂きお供えいただければ、ご供養のお土砂とお札をお受けいただくこともできます。当日お越し頂けない方は、電話やファックス、お手紙等でお申込み頂き送金いただければ、後日、お墓にお持ちいただく、お土砂とお札を郵送させて頂きます。

土砂加持法要

不動明王来寺

定福寺に新たに不動明王座像、矜羯羅童子（こんがらどうじ）立像、制多迦童子（せいたかどうじ）立像をお迎えすることとなりました。これらの尊い仏さまは、神奈川県で個人が不動堂を増築され所蔵いたしておりました仏さまで、先祖代々大切に受け継がれ、お祈りされてきた仏さまです。古い仏さ



まであり、所蔵されていた方が、吉田安成仏師に修復をお願いされました。その際、所蔵されていた方は、将来の仏さまの様子を御心配されている旨を吉田仏師にお伝えいたしておりました。そのような折に、別件で吉田仏師が定福寺を二度訪れる機会があらした。二度目にお越し頂いた際、不動三尊のお話をお伺いまし



た。大変な好機であり、ありがたいお申し出でございました。吉田仏師は、一度お越し頂いた時、定福寺の様子に好感をもたれ、お不動様を所蔵されている方にお話をされたとのことでした。何度もお伝え言いたしますが、定福寺をこのように思っていただけののもすべて代々定福寺にご縁のある方々が、見守り続けてくださったお陰様です。定福寺は不思議なことに、梶ヶ森の十一面観音さまをはじめ、多

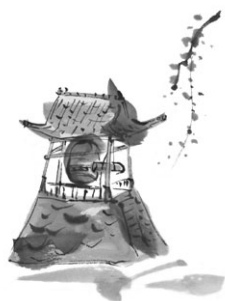


くの仏さまが豊永郷の外から伝えられ安置されています。吉田仏師は、長老の二女で仏師の高田明の元同僚であり、吉田仏師の奥様は、私の高校時代の後輩というご縁です。写真の仏さまは、脇仏の矜羯羅童子立像、制多迦童子立像で約一メートルです。不動明王は台座から約二メートルの仏さまで、定福寺のご本尊の阿弥陀如来、薬師如来、地藏菩薩より大きな仏さまです。

◆駐車場再建

いつもお使いいただいています、鐘樓堂の西側の駐車場が、老朽化と雨漏りにより早急に再建が必要な状態となっています。道路と駐車場の間には段差ができ、その境目から雨水が数十年前より入っていたようです。鉄筋の一部が腐食し、下から見た駐車場の床の鉄は、完全に無くなりコンクリートがむき出しとなっています。また駐車場の表面は陥没が始まっており、近い将来危険になると判断いたしました。そこで駐車場の再建をすることとなりました。これまでの駐車場は、広さの割には車の台数を止めることができなかつたですが、新たな駐車場は、茶畑方面に少し広がります。また駐車場の下にも駐車スペースを用意し、現在

のトイレを水洗の多目的トイレにいたします。それにより、これからは持仏堂（お盆やお彼岸、ご法事をおこなっているお堂）まで、車いすやベビーカーでもお越し頂けるようになります。つきましては、しばらくの間工事をいたしますので、ご不便、ご迷惑をおかけいたしますことをお許しください。



◆檀信徒会館再建

現在、檀信徒会館として使用しています建物は、十五年前までは「定福寺ユースホステル」でした。長老がユースホステル協会より借り入れをし、建設されたものでしたが、「定福寺ユースホステル」の閉館をきっかけに、定福寺檀信徒会館となりました。皆様には、ご法事後のお食事やお盆やお彼岸など法要時の食事、また様々な講習会や会合の場として檀信徒の皆様や定福寺への参拝団の皆様の接待所として御使用いただいております。

この檀信徒会館の前建築物は、昭和四十二年に建築され、現在の会館の一階ホール部分に屋根があるモノでした。その後昭和四十八年に柱だけ残り、外に広げ、更に前建築物

を覆う形で増築が行われました。最初の建築から五十年が経過し、老朽化が進み、また地盤が不安定な状態になっています。また、大豊町内で不特定多数の人が集まる場所で、唯一水洗トイレが完備されていない建物であり、耐震がなされています。またお手洗いや廊下は狭く、床に座る構造になっているため、使いづらくなっています。

つきましては、六年後の定福寺開基一三〇〇年、五年後の弘法大師空海生誕一二五〇年、住職晋山、不動三尊安置を記念し、再建をしたいと考えています。皆様のご助力をよろしく願います。詳細な予定や計画は、後日お伝えさせていただきます。

生命、平和の根源を求めて

長老 釣井 龍宏

昨年、師走の好日、私の毛筆は自然に動き「世界の平和は、合掌の心で話し合うことである」と、大切に記録されました。それもそのはず、現在、宇宙的に争いが心配されています。

私たちの出来ることは、仏教で教えられている、輪廻転生の思想により、宇宙の生きとし生けるもののいのちも全て、私達のいのちと繋がっている、同一のものであると云う思いが根底にあります。つまり宇宙のいのちと自分とは繋がっている、貴いいのちの中で生かされて生きている（生きものの共生共存）であります。

仏教の供養には、いろいろある中で、

一、放生会（旧八月十五日）
捕らえた生きものを放してあげる日。

一、魚類精霊供養碑

海や湖・川等の魚を捕えて仕事にしている方々が、湖畔のほとりに碑を立てて供養している。

一、鳥獣供養塔Ⅱ鳥やけだもの等を捕えている方々が、供養の為に建立されている供養塔です。

その他に箸供養や針供養等が行われています。

この姿は、全てのいのちに対する感謝と祈りに対する貴い姿であります。

お釈迦様が実践され、今日に伝わっている、五戒や十善戒は、いずれも第一条に、不殺生戒を示しています。

お釈迦様が説かれた最古の経典ダンマ・パダⅡ法句経の第十の暴力の章に、次の様に説かれています。

○全ての者は、暴力に怯える。すべての者は、死を怖れる。

自分の身に引き比べて殺してはならない。（不殺生の根本理由）

○全ての者は、暴力に怯える、生は、全ての者が愛好する。

自分の身に引き比べて殺してはならぬ、人をして殺させてはならぬ。

○生きとし生けるものは、安らぎを欲する。

「他」を暴力で殺害して、自分の安らぎを求める者は、死後安らぎを得ない。

○生きとし生ける者は、安らぎを欲する。

「他」を暴力で殺害せず、自分の安らぎを求めるものは、死後も安らぎを得る。

○さらに「殺すのを傍観^{ぼうかん}してもならない。」

釈尊が「もしも自分自身が殺される者の立場に立たされた時の事を想えば、どうして相手の者を殺すことが出来ようか」と簡明に説かれていくことに尽きる。

自分さえ助かれれば良いのではなく、皆んなが助からないと、自分も助からない、その視点から、平和思想が広がって行く可能性があります。

○「核兵器」なんて、とんでもない、保存自体が難しい。このことの共通理解を深めるための、平和教育が大切である。

○ダライラマ法王のスピーチで、世界平和とは、戦争やテロがないばかりでなく、自からの利己主義をいましめ、相手を

思いやる慈悲の心、祈りの心を持ち、暴力を捨てなければなりえない。と力強く訴えています。

どうぞ、貴い思いやりの話し合いで、世界平和、宇宙の平和が達成され、歡喜に満ちた人類の姿が、あふれる事を念じています。次の世代を荷う子供たちが安心して運動や勉強が出来ますよう、念願しています。

世界の平和は
合掌の心で
話し合い
龍虎

奉寄進への感謝録

昭和五十年、日本で七番目に開園くださった土佐豊永万葉植物園の創始者、門田秀峰先生の甥に当たる、門田永治様（堺市出身）が、昨年、当園を訪ねてくださり、万葉集の権威者犬養孝先生の第一集（第三集のCD三十枚をご寄進くださいました。

平成30年度 法語

いのち 法句經一八二

ひとの生を受くるは難く

やがて死すべき者の

いまいのちあるは

ありがたし。

奉寄進への感謝録

一、金壹百万円也

施主 東土居 西村 藤子 様

俗名 源三郎 丁 菩提・興隆仏法の為

一、金 壹十万円也

施主 大滝 小松龍一 外弟妹一同 様

俗名 ヤクミ 丁 菩提・興隆仏法の為

一、金壹拾万円也

施主 神戸(元三津子野) 豊永 正文 様

一、ドウダンツツジ二十本

施主 桃園 上村 永廣 様

故久子様が育てておられたツツジ

一、手作り椅子 十脚

施主 大空会一同様(川井地区)

年間の行事(おまつり)の前夜や年末年始

には、初穂米、干物、砂糖、野菜、生花等々

が届けられます。ご信心な方々には、行事ご

とにさしあげるお(食事)の準備を始め、当

日のお手伝いや受付をしていただいています。

お蔭様で、各行事も厳肅で盛大に行われてい

ます。

先祖菩提 興隆仏法のため謹しんで御礼申

永代日牌供養新奉加ご芳名

永代日牌供養とは、当山持仏堂(弘法大師、

興教大師ご宝前)にお位牌を安置し、毎朝仏飯

とお茶を供えて読経回向し、春彼岸の入りには

年忌を迎える仏さまの卒塔婆を建て、年忌ごと

に、先祖代々の場合は五年ごとにご案内し、ご

供養申し上げます。五十回忌の後も、お位牌は

末代安置され、ご供養してまいります。

一、施主 久生ノ 笹岡香代子 様

一、施主 夫 俗名 博 愛 丁 豊永 正文 様

一、施主 神戶 逆修 (永代納骨) 豊永 正文 様

一、施主 桃園 上村 永廣 様

一、施主 母 俗名 久 子 丁 鈴木 弘美 様

一、施主 名古屋(川井) (平石家先祖永代納骨) 鈴木 弘美 様

一、施主 上東 上池 楠於 様

一、施主 長男 俗名 清太郎 丁 上池 楠於 様

一、神戸市(元川戸) 武川万里子 様

一、施主 志 俗名 中西福美子 様

一、施主 大畑井 岩本 功 様

一、施主 母 年 加 丁 菩提也

一、施主 高知市 三村 厚彦 様

一、施主 父 利 重 丁 菩提也

祠堂料志納ご芳名

祠堂料とは、亡き仏さまへの報恩謝徳と菩

提寺の興隆を念じて、奉納される浄財です。

そのご芳志の高徳にお答えして、菩提寺よ

り、亡きみ仏さまに、院居士、院大師、居

士、大師の法名が届けられます。

一、施主 大久保 北窪 博章 様

一、施主 母 澄 子 丁 菩提也

一、施主 大滝 小松 龍一 様

一、施主 母 ヤクミ 丁 菩提也

一、施主 南国市 小林 幹雄 様

一、施主 母 繁 子 丁 菩提也

一、施主 守山市 三谷 浩視 様

一、施主 父 登 勇 丁 菩提也

一、施主 高知市 砂田 英伸 様

一、施主 母 シズエ 丁 菩提也

一、施主 高知市 三村 厚彦 様

一、施主 父 利 重 丁 菩提也

一、施主 大畑井 岩本 功 様

一、施主 母 年 加 丁 菩提也

一、施主 高知市 三村 厚彦 様

一、施主 父 利 重 丁 菩提也

永代納骨は、万霊供養塔にお骨を納めて永

永続米（護持会費）の納入についてのお願い （平成30年度分）

町内檀信徒の皆様は、各地区総代（護持会代表）・世話人様のお世話により、一月中に納入されています。町外檀信徒の皆様は、振替用紙にてお納めくださいますようお願い致します。尚、納められた浄財は、私たちの総本山智積院への負担金及び定福寺の護持興隆の為に使用させていただきます。（振替用紙をご利用ください）

郵便口座 口座記号 01620-7

金 1,500円以上也

口座番号 12426

加入者名 宗教法人 粟生山 定福寺

2018年

平成30年度年回表

一周忌	平成29年
三回忌	平成28年
七回忌	平成24年
十三回忌	平成18年
十七回忌	平成14年
二十五回忌	平成6年
三十三回忌	昭和61年
五十回忌	昭和44年
百回忌	大正8年

以下50年目ごと

土砂加持法要ご案内

四月一日（土） 午後二時（本堂）

法話 十二時より

県下真言宗寺院様のご出席をいただき、新仏さまのご加入とご先祖さまのご供養が厳修されます。昼の十二時より本堂に於いて総本山智積院阿闍梨大森真弘僧正様に、御法話を頂きます。

どうぞご参詣ください。尚ご先祖様の永代供養をご希望の方は、お申込みくださいます。

定福寺のお線香と散華

お香は松栄堂、箱は長老二女の高田明が描き、文字は、先々代義光和尚が書いた定福寺のお線香ができました。また四月一日の土砂加持法要で僧侶が撒く散華が造られました。表を高田明、裏を長老龍宏が文字を記しています。

○お線香 1,000円
○散華 1,200円

（12枚入り）

定福寺開創	1,294年前
本尊造立	866年前
本堂再建	238年前

仏誕	2584年
西暦	2018年
明治から	満150年
大正から	満106年
昭和から	満93年

土佐豊永万葉植物園に咲く花(十二)



うり (まくわうり)

つる性の一年草。黄色の五裂の花。花期は5月～7月。
写真 岡田憲佳

種としてのメロンは北アフリカや中近東地方の原産であり、紀元前二千年頃に栽培が始まったとされる。そのうち、特に西方に伝わった品種群をメロンと呼び、東方に伝わった品種群を瓜(ウリ)と呼ぶ。マクワウリもその一つである。

岐阜県南部の真桑村が良品の産地であったことから、マクワウリの名前が付けられた。古くから日本で食用にされ、古くは

「うり」と言えばマクワウリを指すものだった。品種が多く、果実も様々な色や形のものがあつた。代表的なものはラグビーボールのような形。近年、甘みのなつてからは、マクワウリは見かけなくなつてしまひました。昔はたくさん作られていて、畑にごろごろとウリがころがってゐた様子を思い出します。

瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして惣はゆ
何処より 来りしものぞ
眼交にもとな懸りて 安眠し寝さぬ

〈長歌〉山上憶良(万葉集巻五—八〇二)

万葉集のなかでもたいへん有名な歌で、大宰府にいた憶良は京に残した子供たちを思つての歌です。瓜を食べれば子供のことが思われる。栗を食べればいっそう子供のことがいしくなる。一体子供はどういう宿縁で何処から来たものでしょうか。目の前にしきりにちらつて、私はぐっすりと眠ることができません。

学ぶ姿

豊永郷民俗資料館
主任学芸員 釣井 龍秀

平成二十九年度時点で、市内には六十七校の市立学校がある。『高知藩教育沿革取調』によれば、江戸時代には、藩校や家塾、寺子屋が設置され、追手筋の教授館や丸ノ内の致道館をはじめ、県内に約三十二カ所の学ぶ場が設けられていた。「藩費を以て他国へ遊学せしめ、若くは私費遊学を許したことは古来間ま之ありと雖も、安永年間以降近代に至り最も多しとす」とあり、土佐の人々の学を問う姿勢がうかがえる。

豊永郷(現大豊町東部)の藩士の子であつた松浦佐用彦は、明治七年に東京開成学校に入り、後に東京大学の学生になつた。教科書にも登場する大森貝塚の発見で有名な、エドワード・シルバースター・モース(以下「モース」)の助手を務め、日本考古学の第一人者といわれている。

佐用彦は若くして亡くなつた。その死を悼み、モースは、佐用彦の墓石に言葉を残している。

「忠実な学徒にして誠実な友、自然を愛した人。物質界でも精神界でも最後に判定をくだすのは權威ではなく、観察と

実験であるとの信念を抱いていた人。それが松浦君であつた。」

(『モースその日その日』ある御雇教師と近代日本—)

また、モースは、動物学者であつたが、日常生活用具(民具)などへの興味や関心も持ち、日本各地で民具の収集を行い、分類・整理・保管や展示を自ら行つてゐる。

佐用彦の出身地、豊永郷にあり、NPO法人が管理運営する豊永郷民俗資料館には、重要有形民俗文化財二五九五点を含み、県内最大規模の民具が保存展示されている。民俗資料館に隣接する定福寺には、佐用彦の父といわれる松浦楨蔵の史料も残っている。

アメリカ人のモースと豊永郷出身の佐用彦の出会いはいは、不思議な縁である。「広く観て、学び、実践する」姿勢が結びつけたのかもしれない。さまざまなことに興味を持ち、問い学ぼうとする態度は、人生を楽しく、豊かにする方法の一つだと思ふ。何事にも真面目な態度で、生活を楽しむ「人生の達人」に憧れる。

(高知市広報あかるいまち平成29年10月号より掲載)



松浦佐用彦(東京大学総合研究博物館所蔵)

定福寺の諸仏像（県指定 12 体 ○印）・堂宇

定福寺本堂

- 阿弥陀如来像(本尊)
- 薬師如来像(脇土)
- 地藏菩薩像(脇土)
- 不動明王像
- 毘沙門天像
- 大聖歓喜天像
- 十一面観音像
- 不動明王像
- 矜羯羅童子像
- 制吒迦童子像
- 大黒天像

宝物殿

- 六地藏（笑い地藏）
- 十一面観音菩薩（定福寺奥ノ院）
- 聖徳太子立像
- 不動明王座像
- 弘法大師座像（御影堂）
- 毘沙門天

持仏堂（大師堂）

弘法大師座像
聖観音立像
地藏菩薩立像
行基菩薩座像
興教大師座像

〈国登録有形文化財〉
本堂、持仏堂(大師堂)

境内

弘法大師修行像
十三仏像
七福神像
四国 88ヶ所お砂踏
仁王尊像
稚児大師像
薬師如来像

平成30年 当山年中行事

行 事	日 時
修 正 会 初護摩祈祷 大般若経転読	1月1日 午前0時より
修 正 会 大護摩祈祷 大般若経転読	1月2・3日 午前10時より
七 福 神 ま つ り (福笹授与・七草がゆ接待)	1月7日 11時
節 分 会 (厄はね歳とり) 大護摩祈祷	2月3日 13時
檀 信 徒 年 回 忌 先 祖 総 供 養 (彼岸中日)	3月20日 13時
土 砂 加 持 法 要 (先祖菩提総供養) 法話 12時より	4月1日 14時
加 持 ケ 峰 奥 ノ 院 大 師 縁 日 大護摩祈祷 (旧暦3月21日)	4月17日 13時
花 ま つ り (大念珠まわし・百足除札授与・甘茶接待)	5月3日(旧暦4月8日)10時
蓮 ま つ り (万霊供養) 土佐豊永万葉植物園保存会主催	7月初旬～8月中旬
諸 病 き ゅ う り 封 じ 祈 祷 土用の丑	7月25日 9時～11時
お 盆 総 供 養 (迎え火)	8月13日 9時～
施 餓 鬼 供 養 (千体地藏流し・送り火) 東土居川原	8月16日 16時～
も み じ ま つ り	11月初旬～12月初旬
粟 生 聖 天 結 願 祭 (開運福寿)	11月16日 9時～14時
除 夜 の 鐘	12月31日
粟 生 聖 天 ご 縁 日	毎月 1日・16日
詠 歌 会 (午前10時～12時)	毎月 2回

御法事を営まれる際はなるべく早目にお申し込みくださいますようお願いいたします。
(友引は葬儀、法事は執り行いません) お塔婆は1本二千円です。

発行所

真言宗智山派
宗教法人 粟生山 定 福 寺
〒789-0167 高知県長岡郡大豊町粟生
☎ 0887 (74) 0301(代)
FAX 0887 (74) 0302
<http://www1.quolia.ne.jp/~jofukuji/>

遍照講詠歌会議員	地区護持会	責任役員	責任役員	責任役員	長老	住職
一同	代表会	小笠原俊一	都築 康博	下村 堯基	海老塚和秀	釣井 龍秀
						釣井 龍宏

平成三十年 戊戌

新四国曼荼羅霊場第61番札所
土佐豊永万葉植物園